

みつけろみろ! 日本ゼットック

ECO ACTION 21 第84期 環境経営レポート

期間:2024年6月 ~ 2025年5月



さがみはら
SDGs
パートナー
さがみはら 2030 持続可能な未来

ZTC
日本ゼットック

Contents

1. 組織の概要	3
2. 対象範囲	3
3. 環境経営方針とTop Message	4
4-1. ZETTOC HISTORY	5
4-2. ZTCはどんな会社?	6
5. 環境経営目標(85期)	7
6. 環境経営計画と環境経営計画に 基づき実施した取組内容(84期)	8
7. 環境経営目標及び環境経営計画の 実施・取組結果とその評価(84期)	13
8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(85期) ...	20
9. 環境関連法規	25
10. その他の活動実績	26
10-1. 社内の安全衛生と健康経営活動	26
10-2. 内部コミュニケーション	26
10-3. 社会貢献活動	27
10-4. 地域貢献活動	30
10-5. 生物多様性活動	34
10-6. 緊急事態への準備及び対応	35
10-7. エコアクション21オブザイヤー	36
10-8. その他の活動	37
11. 代表者による全体の評価と見直し・指示	38

創る力。



ZTC

みっけろみろ! 日本ゼットック

造る力。



今回のレポートで使用した「二酸化炭素排出係数(電気は調整後)」は、以下の通りです。

<本 社>	電気:0.000443t/kWh、ガソリン:0.00232t/L
<相模原>	電気:0.000443t/kWh、都市ガス:0.00223t/m3、 ガソリン:0.00232t/L、軽油:0.00258t/L
<富 山>	電気:0.000466t/kWh、LPGガス:0.00655t/m3、 ガソリン:0.00232t/L
<大 阪>	電気:0.000334t/kWh

1. 組織の概要



(1)事業所名及び代表者

会社の名称 日本ゼトック株式会社(NIPPON ZETTOC CO.,LTD.)

代表者 代表取締役会長兼CEO 牧田 裕樹

代表取締役社長兼COO 森山 正孝

(2)所在地

<本社>

東京都新宿区西新宿1丁目26番2号 新宿野村ビル12F

TEL:03-5323-2020(代表) FAX:03-5323-3010(代表)

<相模原事業所>

神奈川県相模原市緑区大山町1番5号

TEL:042-775-8700(代表) FAX:042-775-7012(代表)

<大阪営業所>

大阪府大阪市中央区安土町3丁目2番4号JUST本町ビル7F

TEL:06-6262-6881(代表) FAX:06-6262-6601(代表)

<新生富山事業所>

富山県中新川郡上市町三日市22番地

TEL:076-472-0380(代表) FAX:076-472-0339(代表)

(3)環境管理責任者氏名及び連絡先

環境管理責任者:江尻 茂之

TEL:03-5323-2020 FAX:03-5323-3010

E-mail:s-ejiri@zettoc.co.jp



(4)事業活動

医薬品・医薬部外品・医療機器・化粧品・雑貨の研究開発及び製造販売

(5)事業規模

設立 1954年(昭和29年)2月12日

資本金 9,600万円

売上高 13,251百万円(84期/2024年6月1日~2025年5月31日)

	従業員数(人)	延床面積(m2)
本社	68	572.28
相模原事業所	358	24,093.43
大阪営業所	2	70.60
新生富山事業所	26	3,161.09

従業員には派遣社員、パート等を含む(2025年5月20日時点)

2. 対象範囲

(1)認証・登録の範囲

本社、相模原事業所、大阪営業所、新生富山事業所

(2)レポート対象期間及び発行日

レポート対象期間:2024年6月1日~2025年5月31日

レポート発行日:2025年8月31日



3. 環境経営方針とTop Message

環境経営方針

【環境経営方針】

当社は、変化の激しい事業を取巻く状況がうむ課題とチャンスをつかまえ、当社ミッション・ビジョン・パーパスを念頭に、全ての事業活動を通じて、地域社会への貢献と地球環境の保全に、全社一丸となり、継続的改善をしながら積極的に取り組むことを誓います。

【環境経営方針実現のための行動指針】

- ◆環境に関する法規制等につき、その遵守を誓います。
- ◆環境目標を定め、環境負荷に対して継続的な改善に努めます。
 - ・電気消費量の削減を中心に、二酸化炭素排出量削減に取り組めます
 - ・産業廃棄物の削減を中心に、廃棄物排出量削減に取り組めます
 - ・上水、井水の排水状況を管理し、総排水量削減に取り組めます
 - ・当社で使用する化学物質の管理を徹底します
- ◆当社が提供する製品等につき、環境への配慮を推進します。
- ◆ESG経営・SDGsを推進します。
- ◆環境経営方針を全従業員に周知します。
- ◆当社が行なう環境に関する活動を広く社会に発信します。



2023年8月29日 改定

日本ゼトック株式会社 代表取締役社長

森山 正孝

我々日本ゼトックは、ミッション「私たちは人々の幸せと健やかなる未来を創造し、世界中に笑顔をお届けしてまいります」の理念を基に、創業以来約70年に亘り多種多様な製品を皆様にお届けしてまいりました。

国内では、創業当時より、高機能な口腔製剤・歯磨きのODM・OEMを中心にシェア拡大に努め、近年では化粧品ODM・OEM分野にも参入する等、ODM・OEM事業を中心に発展に努めてまいりました。また同時に当社の研究・開発力を活かし化粧品自社ブランドの構築に努め、近年では保湿スキンケア化粧品「ヘパトリート」が市場で注目を集めております。

海外では、中国に現地法人を置く等、中華圏ASEAN諸国を中心に、世界中の皆様の健康に寄与できる存在となれるよう努めております。

当社は今後もお客様の健康を実現する為に、長年にわたり培ってまいりました技術力と開発力を駆使し、独創的で多様な製品開発と更なる品質の向上を目指し、皆様から信頼される企業としてサステナブルな貢献をしてまいります。

みっけみっけ
ZTC 日本ゼトック



代表取締役社長兼COO

森山 正孝

4-1. 日本ゼトックの歴史

沿革

日本ゼトックの モノづくりとこだわりの歴史

創業以降、「化学の力による効能の発見と証明」「効能を広く人々に提供していくためのモノづくり」へのこだわりは、脈々と受け継がれています。



1954 ● 東京都世田谷区にわかもと製薬㈱の関係会社日本ゼオラ㈱として設立。
歯石沈着予防成分ゼオライトを基剤とした薬用歯磨「ゼオラ」の生産を開始。



1964 ● 米国メンネン社（現コルゲート社）と技術提携し、男性化粧品およびベビー化粧品を開発し、生産を開始。



1974 ● 全薬工業（株）と提携し、日本初の塩化リゾチーム配合の歯槽膿漏予防用高機能歯磨き剤「デンキュア」（特許製品）を開発し、生産を開始。



1985 ● 藤沢薬品工業株式会社（現・第一三共ヘルスケア株式会社）と提携を開始。
「クリーンデンタル」並びに「フジサワデンタルE」を開発し、生産を開始。



1990 ● 社名を現社名（日本ゼトック（株））に改称し、本社を東京都千代田区丸の内から東京都千代田区九段へ移転。

1993 ● 15年に及ぶ臨床試験を経て、（株）サンギと共同研究を進めてきた薬用ハイドロキシアパタイトが日本で初めて厚生労働省中央薬事審議会より新有効成分として承認され、薬用ハイドロキシアパタイト配合歯磨「アパガードM」が広く認知される。

1995 ● 「アパガードM」の大ヒットによる歯磨き剤増産のため、歯磨き剤調剤設備を増設、主要充填・包装ラインを全自動化。

2002 ● 独自の乳化技術である、エマルション製法を確立し、リンゴ種子エキス配合のスキンケア化粧品シリーズ「ボミエ」を自社販売として発売、通信販売を開始。

2008 ● 工場を神奈川県相模原市淵野辺から神奈川県相模原市緑区大山町（橋本）へ移転。

2012 ● 上海に現地法人「澤透克(上海)商贸有限公司」を設立。大阪市中央区安土町に「大阪営業所」を開設。

2014 ● 相模原事業所に2号棟を増設。本社を東京都新宿区の新宿野村ビルに移転。

2020 ● 生産能力増強の為、相模原事業所に3号棟を新設、新生富士事業所を増床。

2022 ● 相模原事業所の歯磨き剤年間生産数が1億本を突破。

2023 ● チューブ製造機を導入し、ラミネートチューブの生産を開始。

2024 ● アメリカ航空宇宙局（NASA）の技術に応用し、（株）サンギと共同開発を行った薬用ハイドロキシアパタイト配合歯磨が「Space Technology Hall of Fame®」にて、日本企業として初めて「殿堂入り」。

日本ゼトックの名前や商品を、もっと多くの方に知っていただきたい！
そんな熱い思いから新しい企業広告キャッチフレーズが生まれました！

そのキャッチコピーは・・・「みつけてみて！」

この親しみやすいフレーズと共に、リズミカルで目を引くロゴデザインが誕生しました

みつけてみて！

ZTC 日本ゼトック

ロゴに施された輝きのモチーフは、ゼトックの商品と出会ったときのワクワク感や高揚感を表現しており、思わず手に取りたくなるような、そんな魅力が詰まっています。

この新しいロゴは、名刺はもちろん、社名・ZTCロゴと組み合わせ、商品の社名標記などにも幅広く展開していく予定です。

「みつけてみて！」という言葉には、私たちの商品を探し、手に取って、その良さを感じてほしいという願いが込められています。
お客様とゼトックを繋ぐ架け橋となるこのキャッチフレーズと共に、更なる認知度向上を目指します！



4-2. ゼトックはどんな会社

“明るく幸せな毎日は健康であることが基本である”を念頭に、さまざまな製品を送り出してきた日本ゼトック。イオン交換作用をもつゼオライトを配合した薬用歯磨「ゼオラ」から始まった歴史からもうかがえるように、日本ゼトックが一貫して堅持してきたのは、「科学の力で効能を実現する」との企業姿勢。地道で粘り強い基礎研究により新しい材料を発見し、効能を実現する製品化を進め、品質や効き目を徹底的に追及。さまざまな口腔ケア製品および化粧品をODMや自社ルートを通し、国内外のお客さまにお届けしてきました。商品を通じ、一人ひとりを笑顔にしたい。たくさんの人々の笑顔を通じ、世界そのものを笑顔にしたい……。そうした願いは今も、そしてこれからも変わりません。

ゼトック(ZTC)社名の由来

ZTC

Zeola

旧社名(日本ゼオラ)に因み、
口腔ケア製品群を表現

Toiletries

トイレタリー&コスメティック製品

Chemicals

化学製品・一般雑貨



5. 環境経営目標(85期)

事業所	項目	目標
本社 	CO2排出量	電力使用量の維持(kWh)、CO2排出量の維持(t)
	一般廃棄物量	最終処分廃棄物(一般ごみ・紙類)の削減(kg)、再資源廃棄物(機密書類溶解廃棄、シュレッダー、段ボール、古新聞)の削減(kg)
	物質使用量	コピー用紙の削減(枚)
	CSR活動	CSR活動の提案・実施、エコ関連情報発信
相模原事業所 	CO2排出量	電力使用量の増加率と原単位削減(kWh)、電力購入量の増加率と原単位削減(kWh)、ガス使用量の増加率と原単位削減(m3)、ガソリン使用量の増加率と原単位削減(L)、軽油使用量の増加率と原単位削減(L)、CO2排出量の増加率と原単位削減(t)
	廃棄物	汚泥(充填不良、廃バルク)量と原単位削減(kg)、廃プラスチック類量と原単位削減(kg)
	上水使用量	上水使用量の増加率の削減と原単位削減(m3)
	排水量	排水量の増加率の削減と原単位削減(m3)
	化学物質の管理	化学物質使用量の現状維持:PRTR制度対象物質(kg)
	物質使用量	コピー用紙の削減(枚)
	生物多様性保全活動	生物多様性保全活動の実施
	製品開発	製品開発において環境に配慮した施策を行う



本社



相模原事業所

事業所	項目	目標
大阪営業所 	CO2排出量	電力使用量の維持(kWh)、CO2排出量の維持(t)
	上水使用量	上水使用量の維持(m3)
	一般廃棄物量	最終処分廃棄物(一般ごみ・紙類、機密書類溶解廃棄、ペットボトル)の削減または維持(kg)
	物質使用量	コピー用紙の削減(枚)
	製品開発	環境に配慮した製品の開発
新生富山事業所 	CO2排出量	電力使用量の削減(kWh)、LPG使用量の削減(m3)、ガソリン使用量の削減(L)、CO2排出量の削減(t)
	廃棄物量	産業廃棄物量の削減(kg)
	上水使用量	上水使用量の削減(m3)
	下水排出量	下水道排水量の削減(m3)
	化学物質の管理	化学物質使用量の現状維持:PRTR制度対象物質(kg)
	物質使用量	コピー用紙の削減(枚)
	CSR活動	周辺地域のゴミ拾い活動の実施
	生物多様性	生物多様性保全活動の実施



新生富山事業所



大阪営業所



6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容(84期)

項目 ※1			環境経営計画	取組内容
1	CO2排出量	電力使用量の維持 CO2排出量の維持	間引き照明を徹底する	○
			使っていない電気機器の電源オフを実施する	◎
			周辺機器を清掃し、より少ない電力で利用効率を高める	◎
2	一般廃棄物量	最終処分廃棄物(一般ごみ・紙類)の削減 再資源廃棄物(機密書類溶解廃棄、シュレッダー、 段ボール、古新聞)の削減	排出量の現状把握と管理	◎
			使用済封筒・可能な裏紙の再利用	○
			印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める	◎
			ペーパータオルの使用量を必要最小限に留める→促進POP	○
			ゴミ削減(eco)の意識の徹底の為の施策を実施	○
3	物質使用量	コピー用紙の削減	据え付け紙コップ使用を最小限に留める。マイボトル、マイ水筒等を使用する	◎
			使用量の現状把握と管理と、周知の徹底	◎
			印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める	◎
			両面、集約等の機能を有効活用	◎
4	CSR活動	CSR活動の実施	印刷した印刷物を必ず回収する	◎
			自社発信の活動への参加を検討する	○
			野村ビル全体での活動、新宿区、周辺地域におけるCSR活動への参加も検討する	△
			社内へエコに関する情報発信をする	△

◎:実績に繋がる取組ができた、○:取組ができた、△:取組が不十分だった、×:取組が不十分で来期は工夫が必要

※1 本社では、化学物質の使用はなく、上下水量はビルで一括管理しているため、計画項目に盛り込んでいない

■SDGs(持続可能な開発目標)って何？ そして近年は進捗が鈍化……

SDGs(持続可能な開発目標)は、2030年までに、全世界が共に取り組むべき17の目標で、それぞれに具体的なターゲットが設定されています。これらの目標は、貧困の撲滅から健康と福祉の向上、教育の普及、ジェンダー平等の実現、気候変動の対策など、人々の生活と地球環境の両方を改善することを目指しています。しかし近年は進捗が鈍化し、国連報告2024では達成に向け順調なのは17%のみとされています。2024年には「未来のための協定」が採択され、デジタルや資金動員の協力が強調されました。プラ汚染条約交渉は25年も難航中です。残り5年、行動の質と速度が問われます。



本社



6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容(84期)

	項目		環境経営計画	取組内容
1	CO2排出量	電力使用量の増加率の削減と原単位削減 電力購入量の増加率の削減と原単位削減 ガス使用量の増加率の削減と原単位削減 ガソリン使用量の増加率の削減と原単位削減 軽油使用量の増加率の削減と原単位削減 CO2排出量の増加率の削減と原単位削減	共有エリアの夏季冬季のエアコン設定温度管理(夏季26℃、冬季20℃)	○
			不在時の消灯実施、省エネモードの活用	◎
			空調機のフィルター清掃、室外機と熱交換器の洗浄	◎
			コンプレッサーのエアリーク箇所の改善	△
			社有車のアイドリングストップ	◎
			太陽光発電の活用	◎
			空調熱源機の運転調整(夏季)	○
			電気温水器及びウォシュレットの暖房機能停止(夏季)	○
2	廃棄物	汚泥(充填不良、廃バルク)量と原単位削減	残バルクの低減	○
			ロットアウトの低減・改善	○
			汚泥のリサイクル(セメント)の実施	◎
		廃プラスチック類量と原単位削減	再資源化の検討	◎
			不用品廃棄・削減	◎
			廃プラスチック類のコンパクト化	◎
			プラスチックのリサイクル(擬木化)の実施	◎
3	上水使用量	上水使用量の増加率の削減と原単位削減	効率的なバルク製造	○
			節水の実施	○
4	排水量	排水量の増加率の削減と原単位削減	効率生産による洗浄回数の改善	○
			節水の実施	○
5	化学物質の管理	化学物質使用量の現状維持:PRTR制度対象物質	現状の把握と管理	◎
			バルクロットアウトの低減・改善	○
6	物質使用量	コピー用紙の削減	印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	◎
			両面・集約等の機能を活用	◎
			ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等)	◎
7	生物多様性 保全活動	生物多様性保全活動の実施	地域の活動に参加	△
			相模原事業所の敷地内に絶滅危惧種ミシマサイコを育成・栽培、新生富山事業所への展開	◎
			従業員への啓蒙	○
8	製品開発	製品開発において環境に配慮した施策を行う	環境に配慮した製品の開発を行う	◎
			取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う	◎
			環境に配慮した原料、資材の使用を推進する	◎
			環境に配慮した製品仕様を検討する	◎
			SDGsに関する勉強会に参加する	◎

◎:実績に繋がる取組ができた、○:取組ができた、△:取組が不十分だった、×:取組が不十分で来期は工夫が必要



相模原事業所



6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容(84期)

	項目 ※1		環境経営計画	取組内容
1	CO2排出量	電力使用量の維持 CO2排出量の維持	不在時と休憩時間の消灯実施 使っていない電気機器の電源オフ実施 夏季冬季のエアコン設定温度管理	◎ ◎ ○
2	上水使用量	上水使用量の維持	節水を心がける	◎
3	一般廃棄物量	最終処分廃棄物(一般ごみ・紙類、機密書類溶解 廃棄、ペットボトル)の削減または維持	排出量の現状を把握 使用済み封筒等再利用徹底 印刷物を作成する場合、必要最小限の部数に留める ゴミ削減及びリサイクルの意識徹底	◎ ○ ◎ ◎
4	物質使用量	コピー用紙の削減	印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める 両面・集約等の機能を活用 ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等) 電子ファイル化推進	◎ ◎ ◎ ◎
5	製品開発	環境に配慮した製品の開発	環境に配慮した製品の開発を行う 取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う 環境に配慮した原料、資材の使用を推進する 環境に配慮した製品仕様を検討する	○ ○ ○ ○

◎:実績に繋がる取組ができた、○:取組ができた、△:取組が不十分だった、×:取組が不十分で来期は工夫が必要

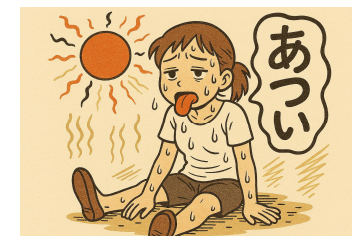
※1 大阪営業所では、化学物質の使用はないため、計画項目に盛り込んでいない



大阪営業所

■今年の夏は暑かった…

2025年の夏は全国的に記録的な暑さとなり、健康管理と環境配慮の両立が求められる季節となりました。特に高齢者や子どもにとっては、熱中症のリスクが高く、無理な節電や冷房制限は危険です。まずは適切な温度で冷房を使用し、体調を守ることが最優先です。そのうえで、日差しを遮るカーテンやすだれの活用、室内の風通しの工夫などで冷房の効率を高めることができます。また、水道水を利用した打ち水や、庭やベランダの緑化によって自然の力で涼を取り入れることも有効です。これらの工夫は電力や水の使用量を抑え、地球温暖化や資源消費の抑制につながります。暑さに負けずに快適に過ごすための小さな行動が、私たちの日常から環境保護を实践する大きな一歩となります。夏の厳しい暑さを、健康と環境の両方を守るきっかけとして捉えることが大切です。



6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容(84期)

	項目		環境経営計画	取組内容
1	CO2排出量	電力使用量の削減 LPG使用量の削減 ガソリン使用量の削減 CO2排出量の削減	不在時と休憩時間の消灯実施	○
			使っていない電気機器の電源オフ実施	◎
			夏季冬季のエアコン設定温度管理	○
			社有車のアイドリングストップ	◎
2	廃棄物量	産業廃棄物量の削減	印刷物の裏紙の再利用	○
			不良品廃棄の削減	○
3	上水使用量	上水使用量の削減	節水の実施	◎
			上水使用量を毎月測定し管理する	○
4	下水排出量	下水道排水量の削減	節水の実施	○
			下水道排出量を毎月測定し管理する	○
5	化学物質の管理	化学物質使用量現状維持:PRTR制度対象物質	PRTR制度対象物質を把握し、使用量を毎月測定し、管理する	◎
6	物質使用量	コピー用紙の削減	印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	○
			両面・集約等の機能を活用	○
			ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等)	○
7	CSR活動	周辺地域のゴミ拾い活動の実施	周辺地域のゴミ拾い活動をする	◎
8	生物多様性	生物多様性保全活動の実施	新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培・啓発の実施	△

◎:実績に繋がる取組ができた、○:取組ができた、△:取組が不十分だった、×:取組が不十分で来期は工夫が必要

■「VUCA」と「BANI」について

近年、社会やビジネスの急激な変化を説明する言葉として「VUCA」と「BANI」が注目されています。まずVUCAとは、**Volatility(変動性)**、**Uncertainty(不確実性)**、**Complexity(複雑性)**、**Ambiguity(曖昧性)**の頭文字を取った概念で、もともとは冷戦後の不安定な国際情勢を表す軍事用語として使われていました。現在では、経済やテクノロジーの進化により将来を見通すことが難しくなった社会を象徴する言葉として広く用いられています。VUCAの時代では、柔軟な発想や多様な視点を持ち、変化に対応できるリーダーシップが求められます。

一方、BANIはVUCAの先を行く新たな時代観を示す言葉です。**Brittle(脆弱)**、**Anxious(不安)**、**Nonlinear(非線形)**、**Incomprehensible(不可解)**の略で、パンデミックや気候変動、地政学的リスク、急速なデジタル化など、より予測不能で人々が心理的にも不安を抱える現代社会の特徴を表しています。BANIの時代では、合理的な分析や計画よりも、共感性・柔軟性・創造性・レジリエンス(回復力)が重視されます。VUCAが「変化への対応力」を問う概念であるのに対し、BANIは「不確実性と脆さの中でいかに人間らしく生き抜くか」を問うものです。両者を理解することは、組織や個人がこれからの時代をしなやかに生きるための大切な視座を与えてくれます。



新生富山事業所



6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容(84期)

(エコアクション21推進組織図)



代表者:代表取締役社長

環境管理責任者



本社

本社環境管理責任者

各部署の推進責任者

各部署の推進担当者



相模原事業所

相模原環境管理責任者

各部署の推進責任者

各部署の推進担当者



大阪営業所

大阪環境管理責任者

各部署の推進責任者

各部署の推進担当者



新生富山事業所

新生富山環境管理責任者

各部署の推進責任者

各部署の推進担当者

<苦情窓口>

本 社：総合管理本部 総務部

相模原：生産管理部

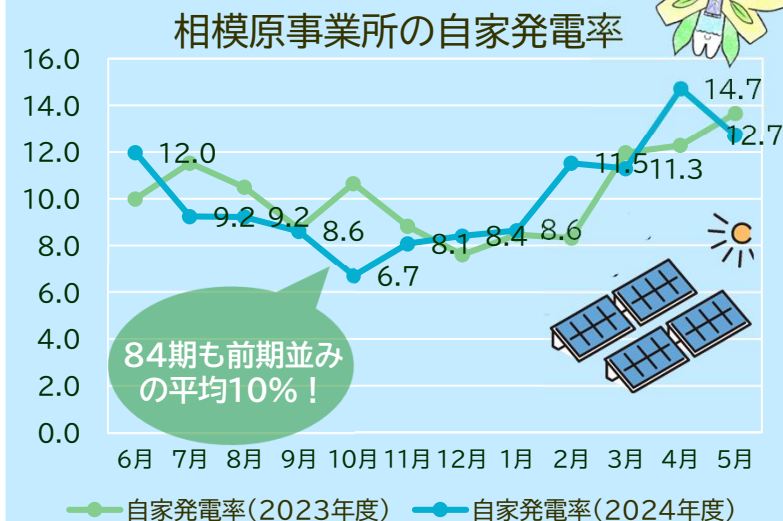
大 阪：大阪営業所

富 山：富山管理課



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(84期)

◆エネルギー		電気使用量(kWh)					
		81期(基準年)	目標値		84期実績		
   	本 社	総 量	27,230	25.868~ 28.591	±5%	24,120	△11.4% 目標達成
	相模原	使用量	6,018,643	△2.9%以上(※1)		6,654,930	△10.6% 目標未達
		購入量	5,617,696	△2.9%以上(※1)		5,991,920	△6.7% 目標未達
		原単位(使用量)	0.567	0.561	△1%	0.645	△13.8% 目標未達
		原単位(購入量)	0.529	0.524	△1%	0.581	△9.8% 目標未達
大 阪	総 量(※2)	6,427	6,106~6,748	±5%	6,389	△0.6%	目標達成
富 山	総 量	855,615	821,390	△4%	762,172	△10.9%	目標達成



本社

前期より引き続き、時差出勤の実施下での測定となりました。不在室の消灯実施や社内TV・PCなどの省エネモードの意識の浸透により、電力使用量は目標を上回る達成となりました。引き続き使用量の低減に努めて参ります。

新生富山事業所

84期は、81期基準年度と比較して電力使用量を減らすことができました。今後、夏季・冬季の現状を把握しつつ、社内の節電意識の向上や対策を行い、電気使用量の削減に努めていきます。

大阪営業所

84期活動において、電気使用量の削減を徹底しました。その結果、目標を達成しました。引き続き、安定的な削減に努めていきます。

(※2)大阪営業所は、事業所の人数を鑑みて、基準年を78期に設定しました。

相模原事業所

84期の電気使用量は基準年と比較して10.6%増加しました。83期は12.4%の増加でしたので、増加率は少し抑えられています。生産量が若干減少したことが要因と思われます。購入電力量も基準年と比較して6.7%増加しましたが、電気使用量よりも増加率は低いため、太陽光発電の効果が確認されました。原単位の考え方を83期中に、製品1本当たりからバルク1kg当たりに見直しをしました。電気使用量も購入電力量も、84期が生産量が減少したにも関わらず、増加してしまいました。来期以降、節電と効率的なエネルギー使用に努めたいと考えています。

81期の10月より太陽光発電設備を設置しています。84期(2024年度)は、83期(2023年度)と同等の、平均10.0%の自家発電率を実現しました。

(※1)相模原事業所は、エネルギー使用量の増加率が、当期の生産量増加率以下になることを目標としています。しかし84期は生産量が低下しましたので、エネルギー使用量の低下率が、当期の生産量低下率以上であることが目標値になります。

unnecessary電気機器の使用を控えたり、不要な照明をこまめに消したり、エアコンの適正な使用を心掛けたり…、各部門で電力消費の削減に向けた活動に取り組みました。今後も継続して、節電への意識を高めることが大切です。



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(84期)



◆エネルギー		ガス使用量(m3)				
		81期(基準年)	目標値		84期実績	
相模原	総量	368,755	△2.9%以上(※1)		420,722	⬆14.1% 目標未達
	原単位	0.0347	0.0344	△1%	0.0408	⬆17.6% 目標未達
富山	総量	38,038	36,516	△4%	26,838	△29.4% 目標達成

◆エネルギー		ガソリン使用量(L)				
		81期(基準年)	目標値		84期実績	
相模原	総量	629	△2.9%以上(※1)		228	△63.8% 目標達成
	原単位(×10 ⁻⁵)	5.92	5.74	△3%	2.21	△62.7% 目標達成
富山	総量	770	739	△4%	133	△82.7% 目標達成

◆エネルギー		軽油使用量(L)				
		81期(基準年)	目標値		84期実績	
相模原	総量	755	△2.9%以上(※1)		13,455	⬆1782.1% 目標未達
	原単位(×10 ⁻⁵)	7.11	7.04	△1%	130.0	⬆1828.4% 目標未達

相模原事業所



84期の都市ガス使用量は基準年と比較して14.1%の増加、原単位についても17.6%の増加となりました。都市ガスを使う生産が多かったことが要因と考えられます。都市ガスについても、来期以降、節ガスと効率的なエネルギー使用に努めたいと考えています。

84期のガソリン使用量は基準年と比較して63.8%の削減、原単位についても62.7%の削減が実現できました。社用車を83期に、ガソリン車からハイブリット車に入れ替えたことが要因と考えています。来期以降も、安全運転と効率的なエネルギー使用に努めたいと考えています。

84期の軽油使用量は基準年と比較して大幅な増大になりました。これは大型トラックの追加導入と稼働率の向上に由来すると思われます。今まで全ての荷物を外注トラックで輸送していましたが、近年、一部の荷物を自前輸送に切替える施策を行っています。Scope3も含めると、当社における軽油使用量には大きな違いは無いと推察しています。

(※1)相模原事業所は、エネルギー使用量の増加率が、当期の生産量増加率以下になることを目標としています。しかし84期は生産量が低下しましたので、エネルギー使用量の低下率が、当期の生産量低下率以上であることが目標値になります。

新生富山事業所



84期は、81期基準年度と比較してプロパンガスの使用量は減らすことができました。今後、夏季・冬季の現状を把握しつつ、社内の意識の向上や対策を行い、プロパンガスの使用量の削減に努めていきます。

84期のガソリン使用量は133.28Lで、81期基準年度と比較しまして82.69%削減となり目標達成となっております。エコドライブを推進してガソリン使用量の継続的な削減に努めていきます。



相模原事業所の社用車をハイブリットエンジン車に代えました！
2023年6月2日：カローラ
2023年8月10日：ノア



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(84期)

◆二酸化炭素排出量(t)

		81期(基準年)	目標値		84期実績		
本 社	総 量	13.16	12.5~13.8	維持	12.20	△7.3%	目標達成
	原単位(×10 ⁻⁴)	3.12	3.09	△1%	3.16	△1.3%	目標未達
相模原	総 量	3,314	△2.9%以上(※1)		3,260	△1.6%	目標未達
大 阪	総 量(※2)	2.15	2.039~2.254	±5%	2.13	△0.9%	目標達成
富 山	総 量	650	624	△4%	531	△18.3%	目標達成

(※2)大阪営業所は、事業所の人数を鑑みて、基準年を78期に設定しました。

相模原事業所



84期の二酸化炭素排出量は基準年と比較して1.6%の削減、原単位については1.3%の増加となりました。2025年4月から、購入電力をグリーン電力に変更したため、二酸化炭素排出量は僅かに基準年を下回りました。

相模原事業所における二酸化炭素排出量の原因の大部分は電気使用量にあるため、来期は一年を通してグリーン電力を使用するため、大きな二酸化炭素排出量削減が見込まれます。

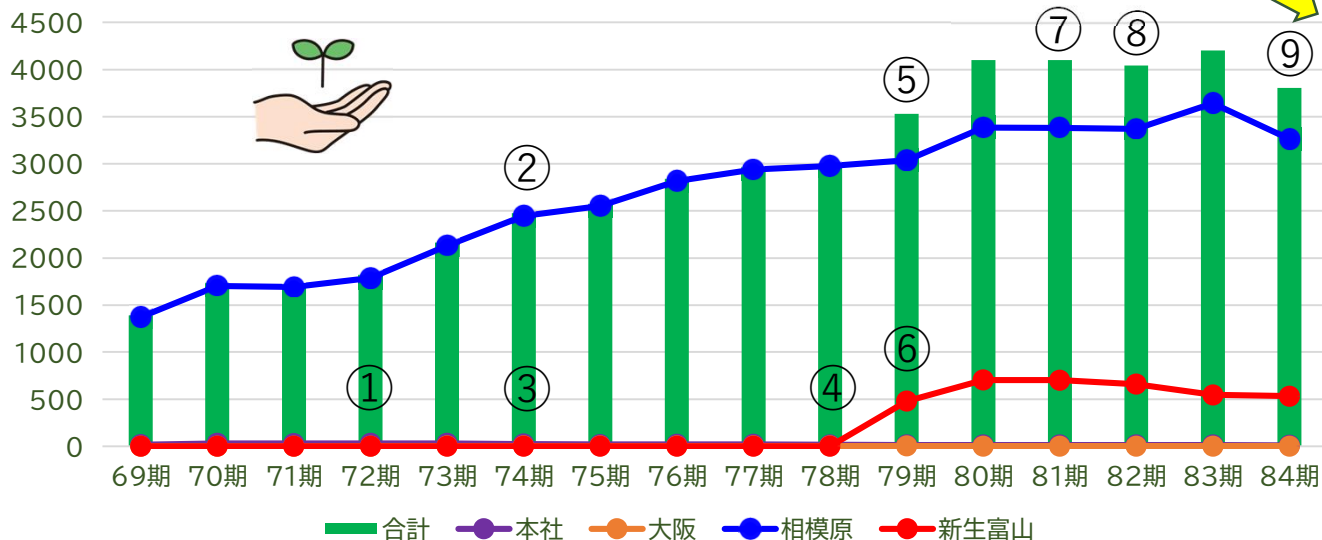
(※1)相模原事業所は、エネルギー使用量の増加率が、当期の生産量増加率以下になることを目標としています。しかし84期は生産量が低下しましたので、エネルギー使用量の低下率が、当期の生産量低下率以上であることが目標値になります。

新生富山事業所



84期は、81期基準年度と比較して二酸化炭素排出量は減らすことができました。今後、夏季・冬季の現状を把握しつつ、社内の節電意識の向上や対策を行い、二酸化炭素排出量の削減に努めていきます。

全事業所合計のCO2排出量推移



- 72期(2012年) 大阪営業所開設
- 74期(2014年) 相模原事業所増設(2号棟)
- 74期(2014年) 本社を九段下から新宿に移転し増床
- 78期(2018年) 新生薬品工業と合併し、新生富山事業所に改名
- 79期(2019年) 相模原事業所増設(3号棟)
- 79期(2019年) 新生富山事業所を増築
- 81期(2021年) 相模原事業所に太陽光発電設備を設置
- 82期(2022年) 相模原事業所でチューピングマシーン本格稼働
- 84期(2024年) 相模原事業所にグリーン電力導入(4月から)

来期は、クリーン電力の効果に期待です!



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(84期)

◆廃棄物		廃プラスチック(kg)				
		81期(基準年)	目標値		84期実績	
相模原	総量	22,787	21,648	△5%	7,495	△67.1% 目標達成
	原単位(×10 ⁻³)	2.15	2.04	△5%	0.73	△66.2% 目標達成

◆廃棄物		汚泥(kg)				
		81期(基準年)	目標値		84期実績	
相模原	総量	702,370	667,252	△5%	286,320	△59.2% 目標達成
	原単位(×10 ⁻²)	6.61	6.28	△5%	2.78	△57.9% 目標達成

◆廃棄物		一般廃棄物(kg)				
		81期(基準年)	目標値		84期実績	
本 社	最終処分	1,875	1,837	△2%	1,201	△35.9% 目標達成
	再資源化	1,557	1,525	△2%	1,288	△17.3% 目標達成
大 阪	総量(※1)	434	412~434	95~100%	112	△74.2% 目標達成

◆廃棄物		産業廃棄物(kg)				
		81期(基準年)	目標値		84期実績	
富 山	総量	7,320	7,027	△4%	6,860	△6.3% 目標達成

本社



掲示等を通しての意識啓蒙により、再資源化廃棄物・最終処分廃棄物ともに大幅に目標達成となりました。今後も引き続き、SDGs推進の一環として、ゴミ削減の意識付け、再資源化の推進を行っていきます。

相模原事業所



84期の汚泥排出量は基準年と比較して59.2%の削減、原単位についても57.9%の削減に成功し、83期よりも良い成績が得られました。これは汚泥をセメントにリサイクルする施策の推進によるものと考えます。
84期の廃プラスチック類は基準年と比較して67.1%の削減、原単位についても66.2%の削減に成功し、こちらも83期よりも良い成績が得られました。これはプラスチック類を擬木にリサイクルする施策の推進によるものと考えます。今後も廃棄物の削減と共に、リサイクルをする新しい施策も常に考えていきたいと思います。



大阪営業所



ゴミの分別、削減に努めた結果、78期と比較すると処分量は減少しました。前年度(83期)と比較して同量でした。今後も現状維持に努めていきます。

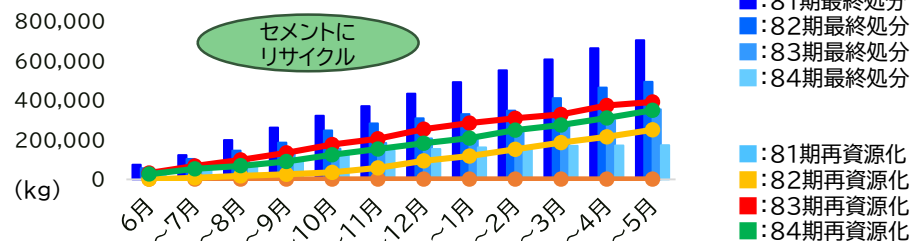
(※1)大阪営業所は、事業所の人数を鑑みて、基準年を78期に設定しました。

新生富山事業所

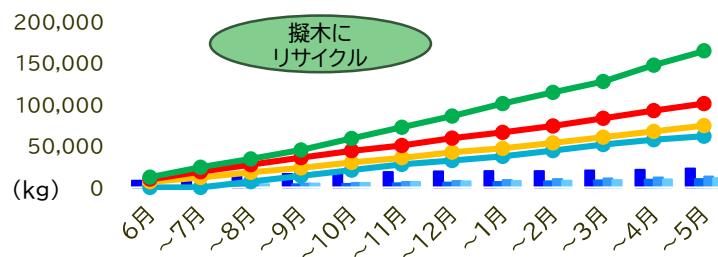


83期までは廃プラスチック類排出量の削減を実施していましたが、一定の成果が出ましたので、84期から産業廃棄物量削減に目標を変更しました。その結果、81期基準年度と比較して約6.3%削減となっており、目標達成となりました。

相模原事業所 汚泥 最終処分・再資源化推移(累計)



相模原事業所 プラスチック類 最終処分・再資源化推移(累計)



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(84期)

◆上下水		上水使用量(m3)				
		81期(基準年)	目標値		84期実績	
相模原	総量	27,939	△2.9%以上(※1)		31,498	⬆12.7% 目標未達
	原単位(×10 ⁻³)	2.63	2.60	△1%	3.05	⬆16.0% 目標未達
大 阪	総量(※2)	23	21.9~24.2	±5%	13	△43.5% 目標達成
富 山	総量	2,436	2,339	△4%	2,224	△8.7% 目標達成

相模原事業所



上水:84期は基準年と比較し12.7%の増加、原単位についても16.0%の増加になりました。バルク生産量が基準年度と比較して減少しているにもかかわらず、使用量が増えたのは、水を多く含む生産が多かったことが要因と考えます。来期以降も、節水の啓蒙活動を強化し、不要な上水の使用量削減に努めたいと考えています。

下水:84期は基準年と比較し37.4%の増加、原単位についても41.5%の増加になり、生産量増加率を上回る排水量になってしまいました。上水同様に、バルク生産量が基準年度と比較して減少しているにもかかわらず、使用量が増えたのは、洗浄回数が増えたことが原因と考えます。来期以降も節水の啓蒙活動を強化し、不要な上水使用量を削減し、それに伴う下水道排水量削減に努めたいと考えています。

(※1)相模原事業所は、エネルギー使用量の増加率が、当期の生産量増加率以下になることを目標としています。しかし84期は生産量が低下しましたので、エネルギー使用量の低下率が、当期の生産量低下率以上であることが目標値になります。

◆上下水		下水道排出量(m3)				
		81期(基準年)	目標値		84期実績	
相模原	総量	51,764	△2.9%以上(※1)		71,111	⬆37.4% 目標未達
	原単位(×10 ⁻³)	4.87	4.83	△1%	6.89	⬆41.5% 目標未達
富 山	総量	2,885	2,770	△4%	2,254	△21.9% 目標達成

大阪営業所



上水:節水に努めた結果、目標を達成し前年度(83期)と比較しても削減に成功しました。引き続き、削減に努めていきます。

(※2)大阪営業所は、事業所の人数を鑑みて、基準年を78期に設定しました。

新生富山事業所



上水:81期基準年度と比較して約8.7%削減となっており目標達成となっています。

下水:81期基準年度比で21.9%削減となりました。83期は目標未達であったため、85期も使用量を確認し注視していきます。

■相模原市と上市町の水道水

私たちの生活に欠かせない水道水は、自然の恵みと人の知恵によって支えられています。神奈川県相模原市では、丹沢山地や相模川水系など豊かな水源を背景に、相模川や城山ダム、相模湖などの水を浄水して市民へ届けています。これらの水は首都圏の水源としても重要であり、水質保全のために森林整備や水源地域の環境保全活動が進められています。蛇口をひねればいつでも安心して飲める水道水は、こうした地域全体の努力によって守られています。

一方、富山県上市町は北アルプス立山連峰を源とする豊かな雪解け水に恵まれています。地下に浸透した清冽な水は自然のろ過を経て、硬度の低いまろやかな軟水として町の水道を支えています。上市町では「おいしい水の町」として、水を活かした地域振興や環境教育にも力を入れています。

どちらの地域にも共通するのは、「自然からの恵みを次世代に残す」という姿勢です。水道水をそのまま飲むことで、ペットボトルの使用を減らし、CO₂排出やプラスチックごみ削減にもつながります。水の循環と環境への配慮を意識することが、最も身近なエコ活動の一つなのです。



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(84期)

◆化学物質の管理

		81期(基準年)	目標値		84期実績	
相模原	フッ化水素及びその水溶性塩	21,255kg	+5%までに維持(※1)		20,326kg	△4.4% 目標達成
	ドデシル硫酸Na	69,919kg	+5%までに維持(※1)		64,321kg	△8.0% 目標達成
	ポリオキシエーテル	0kg	0kg	±0%	増減なし	±0% 目標達成
富山	ドデシル硫酸Na	48.4kg	48.4kg	±0%	0.1kg	△99.7% 目標達成

PRTP法とは、化学物質がどれだけ環境に排出されたかを事業者が自分で把握し、それを国に報告する制度のことです。PRTP法対象物質の使用量を把握し、適切に管理することは、環境保護にとって非常に重要です。これらの物質の使用を適切に管理することで、環境への影響を最小限に抑えることができます。

相模原事業所



84期は基準年と比較し、フッ化水素及びその水溶性塩については4.4%の削減、ドデシル硫酸ナトリウムについては8.0%の削減になりました。フッ素やラウリル硫酸ナトリウム入りの歯磨剤の生産量が減少したことが要因と考えます。ポリオキシエーテルは今期も使用しておりません。

来期以降もPRTP法対象物質の使用量を把握し、しっかりと管理していきます。

(※1)相模原事業所は、エネルギー使用量の増加率が、当期の生産量増加率以下になることを目標としています。しかし84期は生産量が低下しましたので、エネルギー使用量の低下率が、当期の生産量低下率以上であることが目標値になります。

◆物質使用量／コピー用紙(枚)

		81期(基準年)	目標値		84期実績	
本 社	総 量	167,000	163,660	△2%	110,500	△33.8% 目標達成
相模原	総 量	932,500	923,175	△1%	700,000	△24.9% 目標達成
大 阪	総 量(※2)	14,795	13,315	△10%	3,406	△77.0% 目標達成
富 山	総 量	97,000	93,120	△4%	59,500	△38.7% 目標達成

全サイトで目標が達成されました！



新生富山事業所



ドデシル硫酸ナトリウムを使用した製品の製造が行われず使用量が大幅に削減しました。

0.14kgの実績は品質管理

での試薬使用量となります。これからもPRTP法対象物質の使用量を把握し、しっかりと管理していきます。

本社



掲示による意識付け、また昨今の書類電子化の影響もあり、

前期より引き続いての目標達成となりました。

相模原事業所



84期は基準年と比較して24.9%と、83期同様大きな削減に成功しました(83期は24.4%削減)。コロナ禍以降、Web会議等が浸透したこと、

ペーパーレス化も進んだことが要因と考えています。来期以降もペーパーレスの推進に努めたいと考えています。

大阪営業所



基準年度(78期)と比較するとコピー用紙の使用量は77.0%減少しました。これは、PDF化など用紙の削減を推進した結果だと考えられます。前年度(83期)と比較しても削減に成功しました。引き続き削減に努めていきます。

(※2)大阪営業所は、事業所の人数を鑑みて、基準年を78期に設定しました。

新生富山事業所



84期のコピー用紙使用量は、81期基準年度と比較して37,500枚削減でき目標達成となっています。今後も印刷物を必要最低限の部数に留める、両面・集約等の機能

活用、ペーパーレスの推進等を行い、使用量の低減に努めたいと思います。

紙節約のため以下を心がけました。

1. 両面印刷
2. デジタル化
3. プレビュー利用
4. 余白最小化
5. 再利用



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(84期)

◆生物多様性／CSR活動

		目標値		84期実績	
	本社	CSR活動	CSR活動	83期～85期で提案・実施3件	83期～84期で提案・実施2件
				エコ関連情報発信12件	9件
	相模原	生物多様性	生物多様性保全活動	相模原事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培、啓発の実施	・地域活動はコロナ禍のため参加を断念 ・相模原事業所、新生富山事業所、本社で栽培実施
	富山	CSR活動	近隣地域のゴミ拾い活動	周辺地域のゴミ拾い活動 活動の継続(4回/年)	4回/年
			生物多様性保全活動の実施	新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培、啓発の実施	新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培、啓発を実施した

◆環境に配慮した製品開発

		目標値		84期実績	
	相模原	製品開発において環境に配慮した施策を行う		83期～85期:合計3件実施	84期は10件実施(累計で42件実施)
	大阪	環境に配慮した製品の開発		83期～85期:合計3件実施	84期は2件実施(累積で4件実施)

本社



<CSR活動>

83期に、テプラの芯のリサイクルを開始しました(相模原事業所に送り、一緒にリサイクル)。
一部、不燃物や試作品サンプル(チューブやスプレーなど)など、分別されていない廃棄物が確認されたため、衛生委員会と協力して、分別を徹底しました。
しかし84期は新規の提案・実施を行うことはできませんでした。

また84期は、エコ関連情報発信数を目標値に掲げましたが、目標件数に対しては未達となりました。

相模原事業所



<生物多様性>

84期も地域活動には参加できませんでした。相模原事業所内においては、今年もミシマサイコの種まき・育成・栽培を行いました。
環境の違いから、新生富山事業所や本社では育成が難しいですが、来期以降も絶滅危惧植物の育成に尽力して参ります。

<環境に配慮した製品開発>

環境に配慮した商品を今期は10件商品化しました。内訳は、個装箱を廃止した商品が5件、歯磨剤製造時に加熱工程を止めてエネルギー消費を削減した商品が2件、バイオプラスチックボトルを採用した商品が3件です。今後も客先と相談しながら、色々な方面から環境に配慮した製品造りを進めたいと思います。

新生富山事業所



<CSR活動>

84期の「ゴミ拾い活動」は4回行いました。
季節の影響(真夏や真冬の気温、天候)により4回に留まっています。

<生物多様性>

84期も新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培を行いました。

大阪営業所



<環境に配慮した製品開発>

84期は、FSC認証の個箱を使用した製品を2品目開発しました。83期と合わせて4品目の開発を行いました。



8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(85期)



本社



No.	項目			基準年度(81期)	85期(中期目標)	85期(今期目標)	活動内容
1	CO2排出量	電力使用量の維持	総電力使用量:	27,230kwh	基準年比 95%~105% 25,868kwh~28,591kwh	基準年比 95%~105% 25,868kwh~28,591kwh	①間引き照明を徹底する ②使っていない電気機器の電源オフを実施する ③周辺機器を清掃し、より少ない電力で利用効率を高める
		CO2排出量の維持	総CO2排出量:	13.16t	基準年比 95%~105% 12.5t~13.81t	基準年比 95%~105% 12.5t~13.81t	
2	一般廃棄物	一般ごみ・紙類の削減	最終処分廃棄物:	1,875kg	基準年比 -5% 1,781kg	基準年比 -5% 1,781kg	①排出量の現状把握と管理 ②使用済封筒・可能な裏紙の再利用 ③印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める ④ペーパータオルの使用量を必要最小限に留める→促進POP ⑤ゴミ削減(eco)の意識の徹底の為の施策を実施 ⑥据え付け紙コップ使用を最小限に留める/マイボトル、マイ水筒等を使用する
		機密書類溶解廃棄の削減 シュレッダーの削減 段ボールの削減 古新聞の削減	再資源廃棄物:	1,557kg	基準年比 -5% 1,479kg	基準年比 -5% 1,479kg	
3	物質使用量	コピー用紙の削減	総コピー用紙量:	167,000枚	基準年比 -5% 158,650枚	基準年比 -5% 158,650枚	①使用量の現状把握と管理、周知の徹底 ②印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める ③両面、集約等の機能を有効活用 ④印刷した印刷物を必ず回収する
4	CSR活動	83期~85期で提案・実施3件 エコ関連情報発信		-	提案3件、実施3件	提案1件、実施1件(85期) 提案3件、実施3件(累積) 発信数12件	①自社発信の活動への参加を検討する ②野村ビル全体での活動、新宿区、周辺地区におけるCSR活動への参加も検討する ③社内へエコに関する情報発信をする

※本社専有スペースには上水道がないため、目標を設定していません。共用スペースで使用する上水(洗面所等)は、野村ビルが一括管理しており、当社使用量は把握できません

※本社では、化学物質の使用はないため、目標を設定していません

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(85期)



相模原事業所



No.	項目		基準年度(81期)	85期(中期目標)	85期(今期目標)	活動内容
1	CO2排出量	電力使用量の増加率の削減、 原単位の削減	総電力使用量: 6,018,643kwh (原単位:0.567kwh)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:0.550kwh)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:0.550kwh)	バルク1kgあたりの電気・ガス・ガソリン・軽油使用量及び CO2排出量の削減 ①共有エリアの夏季冬季のエアコン設定温度管理(夏季26℃、 冬季22℃) ②不在時の消灯実施、省エネモードの活用 ③空調機のフィルター清掃、室外機と熱交換器の洗浄 ④コンプレッサのエアリーク箇所の改善 ⑤社有車のアイドリングストップ ⑥太陽光発電の活用 ⑦空調熱源機の運転調整(夏季) ⑧電気温水器及びウォシュレットの暖房機能停止(夏季)
		電力購入量の増加率の削減、 原単位の削減	総電気購入量: 5,617,696kwh (原単位:0.529kwh)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:0.513kwh)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:0.513kwh)	
		ガス使用量の増加率の削減、 原単位の削減	総ガス使用量: 368,755m3 (原単位:0.0347m3)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:0.0337m3)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:0.0337m3)	
		ガソリン使用量の増加率の削減、 原単位の削減	総ガソリン使用量: 629L (原単位:5.92×10 ⁻⁵ L)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:5.74×10 ⁻⁵ L)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:5.74×10 ⁻⁵ L)	
		軽油使用量の増加率の削減、 原単位の削減	軽油使用量: 755L (原単位:7.11×10 ⁻⁵ L)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:6.90×10 ⁻⁵ L)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:6.90×10 ⁻⁵ L)	
		CO2排出量の増加率の削減、 原単位の削減	総CO2排出量: 3,314t (原単位:3.12×10 ⁻⁴ t)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:3.03×10 ⁻⁴ t)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:3.03×10 ⁻⁴ t)	
2	廃棄物	汚泥(充填不良、廃バルク)の 削減、原単位の削減	総汚泥量: 702,370m3 (原単位:0.0661kg)	597,015kg -15% 基準年原単位比 -15% (原単位:0.0562kg)	597,015kg -15% 基準年原単位比 -15% (原単位:0.0562kg)	バルク1kgあたりの汚泥量の削減 ①残バルクの削減 ②ロットアウトの低減・改善 ③汚泥のリサイクル(セメント)の実施
		廃プラスチック類の削減、原単 位の削減	総廃プラスチック量: 22,787m3 (原単位:2.15×10 ⁻³ kg)	22,787kg -15% 基準年原単位比 -15% (原単位:1.82×10 ⁻³ kg)	22,787kg -15% 基準年原単位比 -15% (原単位:1.82×10 ⁻³ kg)	バルク1kgあたりの廃プラスチック量の削減 ①再資源化の検討 ②不良品廃棄の削減 ③廃プラスチック類のコンパクト化 ④プラスチックのリサイクル(擬木化)の実施

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(85期)



相模原事業所



No.	項目			基準年度(81期)	85期(中期目標)	85期(今期目標)	活動内容
3	上水使用量	上水使用量の増加率の削減、原単位の削減	総上水使用量:	27,939m ³ (原単位:2.63×10 ⁻³ m ³)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:2.55×10 ⁻³ m ³)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:2.55×10 ⁻³ m ³)	バルク1kgあたりの上水使用量の削減 ①効率的なバルク製造 ②節水の実施
4	排水量	排水量の増加率の削減、原単位の削減	総下水道排水量:	51,764m ³ (原単位:4.87×10 ⁻³ m ³)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:4.73×10 ⁻³ m ³)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位:4.73×10 ⁻³ m ³)	バルク1kgあたりの排水量の削減 ①効率生産による洗浄回数改善 ②節水の実施
5	化学物質の管理	化学物質の現状維持 (PRTR制度対象物質)	化学物質の使用量: (PRTR制度対象物質)	フッ素関連:21,255kg ポリオキシエーテル:0kg ドデシル硫酸Na:69,919kg	基準年比 +5%までに維持	基準年比 +5%までに維持	バルク1kgあたりの化学物質使用量の現状維持 ①現状の把握と管理 ②バルクロットアウトの低減・改善
6	物質使用量	コピー用紙の削減	総コピー用紙量:	932,500枚	基準年比 -3%	基準年比 -3%	①印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める ②両面・集約等の機能を活用 ③ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等)
7	生物多様性	生物多様性保全活動	-	-	相模原事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培、啓発の実施	相模原事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培、啓発の実施	①地域の活動に参加 ②相模原事業所の敷地内に絶滅危惧種ミシマサイコを育成・栽培、新生富山事業所への展開 ③従業員への啓発
8	製品開発において環境に配慮した施策を行う		-	-	83期~85期合計10件実施	83期~85期合計10件実施	①環境に配慮した製品の開発を行う ②取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う ③環境に配慮した原料、資材の使用を推進する ④環境に配慮した製品仕様を検討する ⑤SDGsに関する勉強会に参加する

※83~85期も増産が見込まれるため、電気使用量、ガス使用量、ガソリン使用量、軽油使用量、CO2排出量、廃棄物、上水使用量、排水量の削減は、原単位(バルク1kg当たり)に換算して評価する

※中期目標及び今期目標を一部変更した(原単位を、製品1本当たりからバルク1kg当たりに変更した。化学物資の管理の中期及び今期目標値を変更した。)

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(85期)



大阪営業所



No.	項目			基準年度(81期)	85期(中期目標)	85期(今期目標)	活動内容
1	CO2排出量	電力使用量の維持 CO2排出量の維持	総電力使用量:	6,427kwh	基準年比 95~105% 6,106~6,748kwh	基準年比 95~105% 6,106~6,748kwh	①不在時と休憩時間の消灯実施 ②使っていない電気機器の電源オフ実施 ③夏季冬季のエアコン設定温度管理
			総CO2排出量:	2.147t	基準年比 95~105% 2.039~2.254t	基準年比 95~105% 2.039~2.254t	
2	上水使用量	上水使用量の維持	総上水使用量:	23m3	基準年比 95~105% 21.9~24.2m3	基準年比 95~105% 21.9~24.2m3	節水を心がける
3	一般廃棄物	一般ごみ・紙類の削減または維持 機密書類溶解廃棄の削減または維持 ペットボトルの削減または維持	最終処分廃棄物:	434kg	基準年比 95%~100% 412~434kg	基準年比 95%~100% 412~434kg	①排出量の現状を把握 ②使用済み封筒等再利用徹底 ③印刷物を作成する場合、必要最小限の部数に留める ④ゴミ削減及びリサイクルの意識徹底
4	物質使用量	コピー用紙の削減	総コピー用紙量:	14,795枚	基準年比 -10% 13,315枚	基準年比 -10% 13,315枚	①印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める ②両面・集約等の機能を活用 ③ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等) ④電子ファイル化推進
5	環境に配慮した製品の開発		開発品目数	—	83~85期で合計3品目	83~85期で合計3品目	①環境に配慮した製品の開発を行う ②取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う ③環境に配慮した原料、資材の使用を推進する ④環境に配慮した製品仕様を検討する

※大阪サイトでは、化学物質の使用はないため、目標を設定していません

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(85期)



新生富山事業所



No.	項目			基準年度(81期)	85期(中期目標)	85期(今期目標)	活動内容
1	CO2排出量	電力使用量の削減	総電力使用量:	855,615kwh	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 5%削減	以下4項目の施策をしつつ、エネルギー使用量、CO2排出量を毎月測定し、記録する ①不在時と休憩時間の消灯実施 ②使っていない電気機器の電源オフ実施 ③夏季冬季のエアコン設定温度管理 ④社有車のアイドリングストップ
		プロパンガス使用量の削減	総プロパンガス使用量:	38,038m ³	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 5%削減	
		ガソリン使用量の削減	総ガソリン使用量:	770L	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 5%削減	
		CO2排出量の削減	総CO2排量:	650t	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 5%削減	
2	廃棄物量	産業廃棄物量の削減	総産業廃棄物量:	7,320kg	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 5%削減	①印刷物の裏紙の再利用 ②不良品廃棄の削減
3	上水使用量	上水使用量の削減	総上水使用量:	2,436m ³	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 5%削減	①節水の実施 ②上水使用料を毎月測定し管理する
4	排水量	下水道排水量の削減	総下水道排水量:	2,885m ³	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 5%削減	①節水の実施 ②下水道排出量を毎月測定し管理する
5	化学物質の管理	化学物質の使用量の現状維持 (PRTR制度対象物質)	化学物質の使用量: (PRTR制度対象物質)	ドデシル硫酸Na:48.36kg	81期を基準年度 ±0%	81期を基準年度 ±0%	PRTR制度対象物質を把握し、使用量を毎月測定し、管理する
6	物質使用量	コピー用紙使用量の削減	総コピー用紙量:	97,000枚	81期を基準年度 1%削減	81期を基準年度 1%削減	以下3項目の施策をしつつ、コピー用紙の使用量を毎月記録する ①印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める ②両面・集約等の機能を活用 ③ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等)
7	CSR活動	周辺地域のゴミ拾い活動の実施	-	4回/年	活動の継続(4回/年)	活動の継続(4回/年)	周辺地域のゴミ拾い活動をする
8	生物多様性	生物多様性保全活動の実施	-	-	新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコ の育成・栽培、啓発の実施	新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコ の育成・栽培、啓発の実施	新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培、啓発の実施

※廃棄物量の項目について、83期までは「廃棄プラスチックの削減」でしたが、84期から「産業廃棄物量の削減」に変更しました

9. 環境関連法規

84期、各事業所は、各種適用法規が遵守されております。
また、各事業所に対する、国、各事業所のある都府県・市区町村、近隣の住民からの指導、訴訟及び苦情は有りませんでした。



環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

適用される法規等	本社	相模原事業所	大阪営業所	新生富山事業所	遵守評価
省エネ法	✓	✓	✓	✓	遵守
廃棄物処理法	✓	✓	✓	✓	遵守
消防法	✓	✓	✓	✓	遵守
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	✓	—	—	—	遵守
神奈川県地球温暖化対策推進条例	—	✓	—	—	遵守
フロン排出抑制法	—	✓	—	✓	遵守
相模原市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等の推進に関する条例	—	✓	—	—	遵守
大気汚染防止法	—	✓	—	✓	遵守
水質汚濁防止法	—	✓	—	—	遵守
神奈川県生活環境の保全等に関する条例	—	✓	—	—	遵守
下水道法	—	✓	—	—	遵守
相模原市下水道条例	—	✓	—	—	遵守
下水道法(上市町下水道条例)	—	—	—	✓	遵守
悪臭防止法	—	✓	—	✓	遵守
騒音規制法	—	—	—	✓	遵守
富山県騒音規制法に基づく騒音について規制する地域の指定等について	—	—	—	✓	遵守
相模原市条例;悪臭防止法による悪臭原因物の排出を規制する地域等について	—	✓	—	—	遵守
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化管法)	—	✓	—	✓	遵守
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	—	✓	—	✓	遵守
工場立地法	—	✓	—	✓	遵守
相模原市工場立地法に基づく市準則条例	—	✓	—	—	遵守
労働安全衛生法	—	✓	—	✓	遵守

10. その他の活動実績(84期)



10-1. 社内の安全衛生と健康経営活動

<AED取扱い説明会(相模原事業所)>

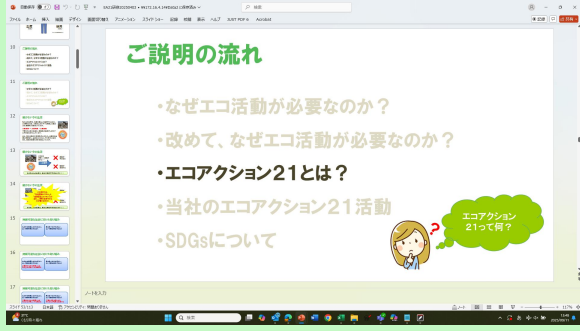


2024年5月～2025年5月キャリア入社及び正社員登用者(合計10名)を対象にAED取扱い説明会を実施しました。セコム警備株式会社より2名来社頂き、AEDを使った救命の流れ(容態確認～心肺蘇生の手順:周囲の安全確認、意識の確認、119番通報、AEDの準備、呼吸の確認、胸骨圧迫(心臓マッサージ)の方法)について講習を受けました。救命は1人で行わず、必ず周囲の助けを借りること。失敗してもかまわない、人を助ける気持ちを持ち、行動をおこす大切さを学ぶ時間となりました。

10-2. 内部コミュニケーション

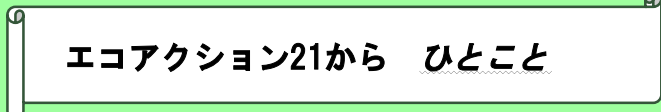
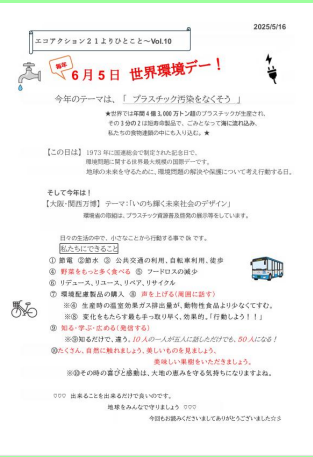
<エコロジー、エコアクション21研修>

84期は、エコロジー、エコアクション21に関する講義研修を、合計4回実施しました。エコアクション21の活動に積極的に関わってもらうためにも社内周知は重要です。新入社員・キャリア入社社員が入社する際には、必ず「エコアクション21」に関する講義研修を実施しています。来期は、別のカタチのEHS研修も計画しています！



<「ひとこと」の配信>

エコロジー意識を、少しでも社内に浸透してもらうことを目的に、新しい社内コミュニケーションを考えました。2024年4月から「エコアクション21からひとこと」という、ゆるい読み物を、不定期に、社内イントラネットを使って配信することにしました。84期は9報配信しました。来期は1年を通して12件配信する予定です。



<マスコットキャラクターのシール作成>

2024年6月に誕生しましたマスコットキャラクター(ゆるキャラ;アメリちゃん、さいぴょん)のシールを8月に4万枚作成し、従業員に配布しました。名刺などに貼付して、当社のエコロジー活動をお取引先様などに広く知って頂くこととしました。



10. その他の活動実績(84期)

10-3. 社会貢献活動



<アルミ空き缶とペットボトルキャップの回収活動(相模原事業所)>

2018年からZTCでもアルミ空き缶とペットボトルキャップを回収し、「NPO法人アルミ缶でボランティア」の活動に参加しています。84期は、以下の個数を回収して、寄付することができました。



- <2024年7月>
- ・アルミ缶: 31.6kg (学校給食95食分相当)
 - ・ボトルキャップ: 56.9kg (ポリオワクチン14人分相当)

- <2024年11月>
- ・アルミ缶: 22.1kg (学校給食66食分相当)
 - ・ボトルキャップ: 64.7kg (ポリオワクチン16人分相当)

- <2025年1月>
- ・アルミ缶: 17.0kg (学校給食51食分相当)
 - ・ボトルキャップ: 82.0kg (ポリオワクチン20人分相当)



アルミ缶 (350ml) およそ45個

学校給食1食分



ペットボトルキャップ4kg
(約1720個)

ポリオワクチン1人分



学校給食
212食分相当



ポリオワクチン
50人分相当



<献血(相模原事業所)>

2024年12月26日(木)に、例年通り、神奈川県赤十字血液センター主催の献血が行われました。9:30~11:30と13:00~16:00までの2回に分けて開催され、29名が献血をしました(200ml:7名、400ml:22名)。昨年は、当事業所が多年にわたり、献血実施を行っているため、献血推進団体として表彰を頂いております。



献血は無償で血液を提供するボランティアです。献血によりいただいた血液から、輸血用血液製剤や血漿分画製剤がつくられ、病気やけがの患者さんの治療に役立っています。血液は人工的につくることができず、また、長い期間保存することもできません。そのため、医療機関に安定的に血液製剤を届けるためには、多くの方の献血への協力が必要です。

(厚生労働省HPより)



10. その他の活動実績(84期)

10-3. 社会貢献活動

<ユニフォームのリサイクル(相模原事業所)>

2024年5月から相模原事業所では、株式会社ガードナーにお願いをしまして、工場で使用して、使用できなくなってしまったユニフォームのリサイクルを開始しました。

株式会社ガードナーは広域認定制度の認定を受けた企業です。広域認定制度とは、製品の製造事業者(製造・加工・販売等の事業を行なう者)が、廃棄物となった自社の製品をユーザーから回収してリサイクルすることを目的とした制度です。

84期は2回目の回収で、20kgをお願いしました。



広域認定制度概念図

廃棄物処理法第9条の9(一般廃棄物)、
第15条の4の3(産業廃棄物)



一般社団法人日本建設業連合会HPより



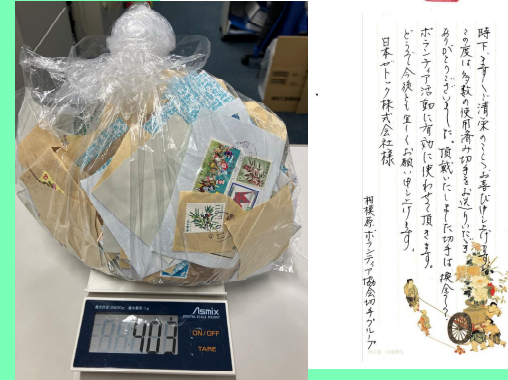
<使用済み切手の回収活動(本社、相模原事業所)>



2019年から、使用済み切手を収集して、「NPO法人 相模原ボランティア協会」へ寄付しています(以前は「ジョイフル」に寄付していました)。

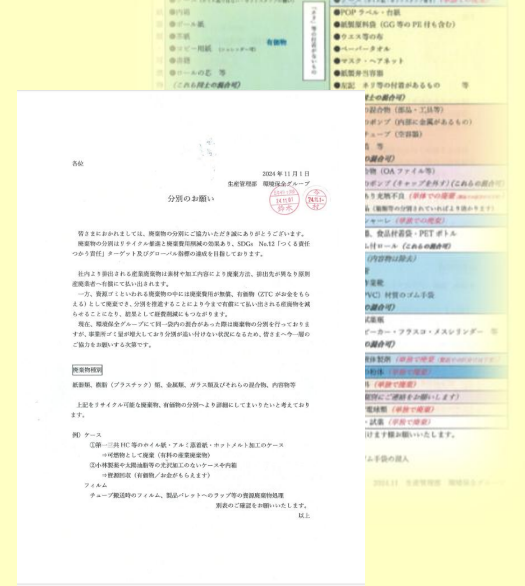
「相模原ボランティア協会」は協会所有の福祉車両などで外出支援を行う「ハンディキャブ運行活動」や障がいを持つ方との交流イベント「ほかほかふれあいフェスタ」などをボランティアで行っています。

切手の寄付の収益金は、ハンディキャブの購入金や、「ハンディキャブ運行活動」の運営にあてられます。84期は約400gの寄付を行い、お礼状を頂きました。



<分別ゴミの徹底>

2024年11月に、相模原事業所の分別ゴミの徹底のため、生産管理部 環境保全グループより、「分別のお願い」のレターを社内に配布しました。せっかく、リサイクル活動を行っているので、ゴミの分別もしっかりしておきたいですね。



<FIDR(国際開発救援財団)への賛助>

FIDRは、開発途上国の人々が自立的に発展できるように、教育や開発援助などを行うNGOです。その活動は、「心をあわせ、未来をひらく」をモットーに、現地のニーズに応じた多岐にわたる支援を行っています。また、日本やアジアの国々で起こる自然災害に対する緊急援助事業も展開しており、熊本地震などの際にはその活動が評価されました。



当社は2022年6月からFIDRの賛助会員となり、保健衛生・医療・栄養・農業・教育・産業育成などの分野で行われるFIDRの活動を支援しています。開発途上国の子どもたちが健康的に成長できる社会の実現に向けて、ZTCはFIDRの活動を全力でサポートしていきます。

10. その他の活動実績(84期)

10-3. 社会貢献活動



<プラスチックのリサイクル (相模原事業所)>

2021年8月から、相模原事業所はプラスチック廃棄物のリサイクルを始めました。この活動は、神奈川県愛甲郡愛川町の株式会社アクト・エアと共同で行われ、ほぼ100%の材料リサイクル(原料化して再利用可能な状態にし、資源を循環させるリサイクル)を目指しています。このリサイクルプロセスでは、プラスチック廃棄物は焼却せずに破砕、溶融、圧縮成形され、擬木に変換されます。これにより、CO2の排出量が削減されます。さらに、リサイクルされた擬木を花壇用柵プランターとして購入し、79期から当社で行っている「ミシマサイコ」の栽培に使用しています。これは、企業内での循環型リサイクルの一環と言えます。84期は、164,560kg分をリサイクルしました。



擬木を使用した
ミシマサイコ花壇の柵(相模原)

<排水処理汚泥のリサイクル (相模原事業所)>

排水汚泥とは、産業活動から生じる排水を処理する過程で生成される泥状の廃棄物です。工場や下水処理場で発生するこれらの汚泥は、高温で焼却するとセメントの原料に再利用することができます。このリサイクル活動を、相模原事業所では、株式会社アクト・エアと共同で、2022年7月から開始しました。当初は全体の20%の汚泥のリサイクルから開始して、2022年の9月からは100%の汚泥がリサイクルされるようになりました。

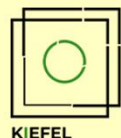
このようなプロセスは「材料リサイクル」と呼ばれ、原料化して再利用可能な状態にすることで資源を循環させることができます。相模原事業所では、現在はセメントの原料として有効に利用されています。84期は、汚泥関係で348,060kg分をリサイクルしました。



株式会社 アクト・エア

<パレットとフレコンバックのリサイクル (相模原事業所)>

2024年6月から、当社での使用が終了した「パレット」と、購入した原料の風袋である「フレコンバック」のリサイクル販売を始めました。この活動は、キーフェル株式会社のご協力を得て行っております。84期は、「パレット」1,225枚、「フレコンバック」100枚をリサイクル販売しました。



物流資材 売りたい!買いたい!
キーフェル 株式会社

<社会貢献型職域販売「クローズドマート」>



社会貢献型職域販売サービス「クローズドマート」は、食品ロスを削減し、持続可能な開発目標(SDGs)を推進するための取り組みの一つです。クローズドマートで購入すると食品ロス、処分ロス削減に繋がります。また、売上の一部が途上国のこどもたちの支援にも使われます。SDGs対策を社員参加型で進められるように、82期から当社は法人契約し、従業員がお得にお買い物しながら社会貢献できる環境作りと、情報を発信して利用率向上活動にも取り組んでいます。利用促進に向け、「クロマ通信」の定期配信を継続中。

10. その他の活動実績(84期)

10-4. 地域貢献活動



<相模原市エコオフィス認定>

2023年9月20日、相模原市エコオフィス認定を受けました(有効期限:令和8年8月31日)が、当該事業は、令和6年度末をもって終了しました。
事業終了にあたって、認定事業者は「殿堂入り」として認定するとともに、今後も「エコショップ・エコオフィス認定事業者」の名称を利用させて頂けるようです。



<「ななかまど」へのご訪問>

2024年4月から、業務支援グループのボランティア活動として、相模原市の小規模多機能型居宅介護施設「ななかまど」を訪問し、微力ながら、支援を行っています。
入居者の方に対する傾聴や、ゲームへの参加、お茶やお菓子の配膳、歩行補助、イベントのお手伝いを行っています。
84期は合計12回、訪問しました。



<SDGsスタディーツアー(相模原事業所)>

1. 実施日等詳細

実施日:2024年10月30日(水)
場所:3号棟3F食堂及び3号棟2F見学通路
学校名:相模原市立清新中学校 1年生
受入人数:1クラス(40名) 他引率職員2名
引率者:田中様 他1名



2. スケジュール

12:00	バス到着
12:00~13:00	小山公園にて生徒昼食
13:05~13:20	3号棟食堂へ案内
13:30~14:00	事業所説明
14:00~14:30	工場見学(3号棟2F見学通路にて包装工程・製品倉庫見学)
14:30~15:10	SDGs取組説明
15:15	終了

3. ねらい(学校より)

- 総合的な学習の時間における、課題解決学習の場として、各自のテーマに沿った体験を実施し、課題解決の実践力を育成する。
- 自分たちが育った地域や文化に誇りを持たせる。
- SDGsの視点を持ち、「さがみはら」地域における課題をみつけ、自らその課題を解決しようとする態度を育成する。

4. 学習内容

- 当社の業務内容を説明し会社を知ってもらう。
- 工場見学を通じ、ものづくりへの興味を持ってもらう。
- SDGsの取組を紹介し、当社の社会への貢献について知ってもらう。



10. その他の活動実績(84期)

10-4. 地域貢献活動

<CSR活動報告 地域清掃(相模原事業所、新生富山事業所)>

地域清掃は、企業が社会貢献活動(CSR)の一環として行う活動の一つです。この活動は、企業が自社の事業所周辺や地域社会の公共の場でゴミ拾いや清掃活動を行い、地域社会との関わりを深め、地域の美化と環境保全に貢献することを目指しています。

これは、企業の社会的責任(CSR)を果たすための重要な取り組みであり、地域社会との良好な関係を築くための一助となります。また、従業員が直接地域社会のために貢献することで、社員のモラル向上やチームワークの強化にもつながります。

地域清掃活動は、企業が地域社会と共に成長し、持続可能な社会を実現するための一歩と言える活動です。

相模原事業所では、2015年から地域貢献活動として近隣の歩道でゴミ拾いを行っており、84期は2024年6月20日、10月21日、11月22日の3回、活動を行いました。

新生富山事業所でも、地域清掃の一環としてゴミ拾い活動が行っており、84期は、2024年9月24日、10月22日、2025年3月24日、5月8日の4回、活動を行いました。

これらの活動は、地域の美化と環境保全に貢献しています。

【相模原事業所近隣】



【新生富山事業所近隣】



相模原事業所では、
2015年から10年間、
毎年ゴミ拾い活動をやっ
ているよ！



新生富山事業所は、
2020年から5年
間だよ！

10. その他の活動実績(84期)

10-4. 地域貢献活動



<第52回相模原市民 桜まつり(相模原事業所)>

2025年4月5日(土)、6日(日)の2日間、研究本部と広報グループとが協力し、相模原市歯科医師会と共に「オーラルフレイル啓蒙活動」(相模原市民のオーラルケア意識を高める活動)を推進するため、相模原市民が最も集まるイベント「第52回相模原市民 桜まつり」に出店致しました！

今年の桜まつりの来場者数は50万人。さくらも満開でパレードやステージ発表など楽しいイベントも盛りだくさんで、大いに賑わっていました。

ゼトックでは様々な歯磨き粉を無料で試すことができる「歯みがき体験バー」を実施。飲食屋台が多数並ぶ中、「歯みがき？ここで？」と皆さんびっくりされていましたが、口腔内のお悩みや味の好みに合わせて歯磨き粉を試す機会はそうないとあって、最終的には2日間で約400名の方にお試しいただきました！



「これ買いたい！」と言っていたいたり、お子様連れのお客様からは、「いつもは歯磨きを嫌がるのにありがとう」と感謝されたり、地元相模原市で生産していることに興味を持ってくださる方がいたり…。

普段お客様と接する機会がない私たちにとって、大変貴重な機会となりました。

今回の企画はスタンプラリーや歯科衛生士さんのアドバイス、サンプル配布など、相模原市歯科医師会のご協力により実現できました。

ゼトックをたくさんの方に知っていただくことに繋がった「オーラルフレイル啓蒙活動」、今後も相模原市歯科医師会と共に推進していきます。



10. その他の活動実績(84期)

10-4. 地域貢献活動



<特定非営利活動法人おおかみこどもの花の家(新生富山事業所)>



富山県中新川郡上市町にある写真の古民家は、映画「おおかみこどもの雨と雪」の舞台モデルとなりました。



明治20年の登記なので、140年前から大切に愛されてきた建物です。誰もが楽しめるように公開されていて、お庭を眺めながらお茶を飲んだり、お弁当を広げて食べたり、まるで映画の世界観そのままに、ゆっくりとした時間の流れを楽しめる憩いの場所となっています。

古き良き日本の歴史を残した貴重な古民家になるべく長く残すために活動されている「特定非営利活動法人おおかみこどもの花の家」の活動を日本ゼットック株式会社も賛助会員企業として応援しています。

とおぼえ通信→
で情報を発信
されています



花の家は、
設立10周年を迎えました。
それを記念した、
記念品(アクリル
プレート)を頂き
ました！

私たちの自社商品
「ヘパトリート」
を置かせて頂い
ています！



おめでとうございます！！

2024年12月3日付け告示を経て、花の家と土蔵が、国の登録有形文化財に認定されました。
上市市では、釈泉寺の円筒分水槽に続く、二件目、三件目になるそうです。
早速、私たちも、祝電をお送りさせて頂きました！

10. その他の活動実績(84期)

10-5. 生物多様性活動

【ミシマサイコと相模原のかかわり】



相模原市は、かつて相模野台地と呼ばれる広大な原野が広がっていました。その中には、「柴胡が原」と名付けられたミシマサイコの自生地が存在していました。夏には黄色い花が一面に広がり、秋にはその根が貴重な漢方生薬・柴胡の原料として採取されていました。しかし、1900年代から都市化が進行し、1950年代には都市化と工業用地化の影響で自然環境が大きく変わってしまいました。その結果、相模原市内で自生のミシマサイコを目にすることができたのは、1955年頃が最後だとされています。



【以前、従業員に配布した苗の成長】



ミシマサイコの栽培は難しいようですね！
皆さん、ご苦労しながら栽培されているようです。

【相模原柴胡の会】

「相模原柴胡の会」は、生物多様性に関する法律を遵守しつつ、ミシマサイコの育成と栽培を行い、その普及と啓発を目指す団体です。また、相模原市の環境保全とイメージ向上にも貢献しています。私たちの相模原事業所では、毎月この団体の活動に有志を募って参加していました。

【相模原事業所：ミシマサイコの育成】

相模原事業所では、引き続き積極的にミシマサイコの栽培・育成・繁殖を行っています。例年、3月に種まきを行い、大きくなってきたら花壇に移します。花壇では、あえて雑草を抜かない自然農法を取り入れています。



10. その他の活動実績(84期)

10-6. 緊急事態への準備及び対応



<避難訓練(相模原事業所)>

相模原事業所では、2025年4月25日の16:40～日勤者(205名)向け、20:45～夜勤者(37名)向けに、関東地域震度6の地震を想定した避難訓練を行いました。避難時間は日勤向けで4分52秒、夜勤向けで3分5秒でした。訓練開始時には社内電話で地震発生を知らせ、避難は各部署ごとに行われ、ヘルメットや防災頭巾を着用してトラックヤードに集合しました。

【日勤向け訓練】

【夜勤向け訓練】



<避難訓練(新生富山事業所)>

新生富山事業所では、2024年8月2日の16:30～、全新生富山事業所の従業員を対象に、北陸地方震源とする震度5強の地震を想定した避難訓練を行いました。訓練は避難経路の確認と避難訓練で、避難時間は約10分でした。訓練開始時には社内電話で地震発生を知らせ、避難は各部署で行われました。避難時にはヘルメットや防災頭巾を着用しました。



<避難訓練(本社)>

本社では、新宿野村ビルの管理会社の主催で、2024年10月11日と2025年3月21日に避難訓練を行いました。これらの訓練は、災害発生時の避難ルートの確認、パニック状態を抑える方法、そして緊急事態に対する手順の確認を目的としています。当社からは、秋の訓練では20名、春の訓練では25名が参加しました。これらの訓練は毎年2回、春と秋に実施されています。



10. その他の活動実績(84期)

10-7. エコアクション21オブザイヤー

<83期 環境経営レポートより>

10. その他の活動実績(83期)

10-7. エコアクション21活動での出会いから...

<エコアクション21オブザイヤー2023>

83期は初めて「エコアクション21オブザイヤー」に応募しました。「環境経営レポート部門」と「ソーシャル部門」の両方に応募を行いましたところ、「ソーシャル部門」の銅賞を受賞することができました。

授賞式には、当社から2名が出席しまして、受賞された諸先輩企業の方々と有意義な意見交換をすることができました。

<授賞式>
日 程:2024年3月24日(日)
時 間:11:00~13:30
場 所:TKP品川カンファレンスセンター



<常磐植物化学研究所様のご来訪>

2024年8月6日、今度は「常磐植物化学研究所」に、当社相模原事業所へご来訪頂きました。当社工場見学や、絶滅危惧植物「ミシマサイコ」の栽培状況、当社エコロジー活動について、見学を頂き、多くの意見交換をさせて頂きました。



<常磐植物化学研究所様をご訪問>

2024年5月15日、「エコアクション21オブザイヤー2023」の授賞式でお会いさせて頂いた「常磐植物化学研究所」の千葉県佐倉工場をご訪問させて頂きました。「常磐植物化学研究所様」は「ソーシャル部門」で金賞を受賞されています。この度、両工場を訪問し合いましょうという約束をさせて頂き、先ずは当社が訪問させて頂きました。

「常磐植物化学研究所様」は、エコアクション21を上手に活用することで団結を深め、環境経営と品質文化の融合を実現し、持続的な成長を遂げています。日本でもトップクラスの運用を拝見させて頂き、とても勉強になりました。

当社においてもできる範囲で、「常磐植物化学研究所様」を見習い、もっと効率よく、エコアクション21を有効活用することで、品質文化の醸成、GMP管理・衛生管理の向上、企業イメージの向上を目指していくことが重要ではないかと思いました。



<当社エコロジー活動のマスクットキャラクター(ゆるキャラ)募集>

「エコアクション21オブザイヤー授賞式」と「常磐植物化学研究所様」のご訪問を通じて、当社でも、エコロジー活動のマスクットキャラクター(ゆるキャラ)を造ることにしました。

「常磐植物化学研究所」のゆるキャラである、キュートな「ベネたむ」ちゃんに酷似されました。合計6体の応募があり、厳正な審査の結果2体が採用されました。当社のエコロジー活動用のキャラクターに「アマレロ」ちゃん、当社のミシマサイコ栽培用のキャラクターに「さいびん」ちゃんを選びました。

詳細は次ページに記します。



39

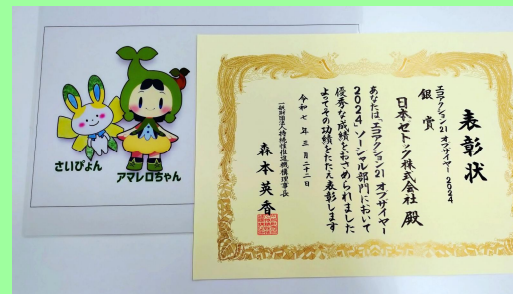
■「エコアクション21オブザイヤー」とは？

「エコアクション21」の認証事業者における環境経営レポート及び社会課題解決につながる取組を顕彰することで、脱炭素社会の実現、SDGsの達成に向けた多様な取組を国内に広く発信するとともに、こうした動きを加速化させることを目的として、「エコアクション21オブザイヤー2025」を実施するものです。(一般財団法人持続性推進機構)

<エコアクション21オブザイヤー2024>

83期に続き、「エコアクション21オブザイヤー」に応募しました。「環境経営レポート部門」と「ソーシャル部門」の両方に応募を行いましたところ、「ソーシャル部門」で銀賞を受賞することができました。昨年は銅賞を頂きましたので、一歩前進です！

授賞式には、当社から2名が出席しまして、受賞された諸先輩企業の方々と有意義な意見交換をすることができました。



<授賞式>

日 程:2025年3月22日(土)

時 間:11:00~13:30

場 所:TKP品川カンファレンスセンター



前期にお互いの事業所を訪問し合い、常磐植物化学研究所様とも、久しぶりにお会い出来ました。

アワード「ソーシャル部門」
銀賞おめでとうございます！

来年も、ご評価を頂けるといいね！！



社内報(2025年6月)にも大きく取り上げて頂きました。

10. その他の活動実績(84期)

10-8. その他の活動



【2025年3月 相模原事業所に「ボスマート」が導入！】

製造部 包装グループの平本さんの提案で、相模原事業所の食堂2か所に「ボスマート」が導入されました。平本さんの提案は、相模原事業所のランチを充実させたいという思いからのものでした。

日常、相模原事業所のお昼休みに従業員は、食堂で自前のお弁当やコンビニのお弁当、仕出しのお弁当などを食しています。

自動販売機のパンやカップ麺もありますが、品数が少ない状況でした。特に夜勤のお昼休みは、仕出しのお弁当がないため、ランチの選択肢が少ない状況でした。

平本さんが、いろいろな企業向けランチを調査・検討しました結果、「ボスマート」が良いのではないかと結論に至り、会社に提案しまして、見事採用されました。

「ボスマート」では、冷凍食品(軽食やパスタ、アイスクリームなど)もあり、従業員の選択の幅が広がりました！



当社では、2022年12月から「プロジェクト提案制度」を行っています。これは様々な提案を募り、審議した上で、各提案について、採用・不採用を含め、何段階かのクラスに分類し、採用された場合は、提案者に調査・検討をしてもらい、その結果を発表してもらうものです。

84期のプロジェクト提案制度が切っ掛けで、EHSに繋がる、以下の2つの大きな成果が得られました。

【84期 相模原事業所の「消毒用品」の廃棄量が大きく削減！】

製造部 調剤グループの野間さんの提案で、相模原事業所の「消毒用品(アルコールとそれを含浸したペーパータオル)」の廃棄量が大きく削減されました。

野間さんの提案は、相模原事業所の製造部門で使用している「消毒用アルコールとそれを含浸したペーパータオル」の管理手順に大きな無駄があることに着目し、経費削減のためにも、管理手順の見直しをしたいという、強い思いからのものでした。

相模原事業所の製造部門では、器具等を清潔に保つために、「消毒用品」は欠かせないもので、大変重要なアイテムです。



しかしながら、野間さんは、管理手順に見直しの余地があるのではないかと考え、幾つかの試験を行ったところ、消毒効果への影響に無関係な方法で、廃棄量を削減する管理手順を見出しました。そして、当社の信頼性保証部門の決裁を得まして、新しい管理手順が採用されました。その結果、数百万円の経費削減に繋がりました！

「消毒用品」の廃棄量削減はコスト面だけでなく、廃棄に伴う環境負荷の軽減にも寄与するものであり、持続可能な事業運営の観点からも大変意義のある取り組みであると考えます。野間さんは、今後も、衛生管理を維持しつつ、資源の有効活用と環境への配慮を両立できるよう努めていくそうです！



11. 代表者による全体の評価と見直し・指示

<全体の評価>

84期も、相変わらずの物価高騰で、仕入れに関しては苦慮が続いた。来期以降も地政学的リスクや気象リスクに伴う為替や物価への影響に悩まされることになるだろう。

一方でコロナ禍の副産物ともいえる、在宅勤務やリモート会議、webセミナー受講等は定着し、効率化を生んでいるように感じる。これに伴ってペーパーレス化も進み、コピー用紙の使用量については、全事業所で削減目標を達成することができ、評価したい。

83期には、エコアクション21オブザイヤー2023のソーシャル部門で銅賞を頂くことができたが、84期は、ワンランクアップの銀賞を頂くことができた。ソーシャル部門での受賞であることから、地域活動など、地道な社会貢献活動が認められたものと考えられるため嬉しく思う。

相模原事業所では、取引先の協力も得て、2025年4月からグリーン電力を導入することになった。相模原事業所の温室効果ガス排出量のほとんどは電力に由来するため、来期以降、これは大きな効果を生むことになるだろう。

また81期に太陽光発電設備を設置したが、今期も70万kWh弱の自家発電が叶い、自給率にして10%程度に相当するため、大きな効果であると実感している。

軽油使用量については、出荷物流の内製化を進めている関係で大幅な増加となった。しかしながら、外注していた物流を内製化したので、当社全体のサプライチェーン温室効果ガス排出量で見れば今までと差は無いと考える。

廃棄物については、数年来、相模原事業所でプラスチックと污泥のリサイクルを行っていることで、每期、極めて大きな廃棄削減効果を得ることができており大変評価している。

本社でも、廃棄物量の削減目標を達成しており、また前述の通りコピー用紙使用量も大きく削減された。引き続き、ゴミを出さない、紙を使用しない習慣の継続を期待する。

大阪営業所についても、コピー用紙の使用量が、ひときわ大きく削減された。本社同様、この良い習慣を継続してもらいたい。

新生富山事業所では、エネルギー使用量や廃棄物排出量も削減された。これは生産量が減少したことによるものが大きいだろう。そんな中、みな真摯にエコロジー活動に取り組んでおり、嬉しく思っている。

<指示>

相模原事業所には、グリーン電力を導入したとはいえ、節電等の節約意識は、製造業の根幹であるため、より一層の定着が成されるよう指示した。

本社と大阪営業所、新生富山事業所には、SDGsやESGを踏まえた新しい取り組みを考えるよう指示した。また前期同様、全体を通して、様々な情報をデータ化し、データベース化し、データ連携させ、適切な情報を適切な時期に速やかに得られるよう、そして効率化やペーパーレス化に繋がるようなDXの推進を指示した。また、来期も多く行われるであろう環境関連活動や社会貢献活動については、広報部門を通じて、社会への積極的な発信に力を入れるよう指示した。

最近では、BANIな時代であると言われるようになってきた。つまり脆く(Brittle)、不安で(Anxious)、非線形性で(Non-linear)、不可解な(Incomprehensible)時代ということだ。

一見強固な体制も何かの切っ掛けで脆く崩壊する。コロナ禍のように不安な状態は真実を見誤る可能性を秘め、地政学的・気象リスクは常識的な予測を不可能とする。複雑化した社会は、物事の詳細やプロセスが不透明であり、全体像を把握し難いと言ってよいだろう。

このような時代において、当社が持続的競争優位を獲得して生き抜くため、人財の適性配置や発掘、抜擢も行い、適応力、回復力の強化に加え、従来の事業領域から踏み出して新規分野にもチャレンジしていきたい。来期もSDGsやESGを念頭におき、社会への貢献と環境への負荷軽減、利害関係者との良好な関係構築、人財の活用を行い、それと同時に、またそれを利用して企業価値を高め、持続的競争優位の獲得を進めていきたい。

環境負荷低減については、「エコアクション21推進委員会」が、社会貢献については全部門が、協力とリーダーシップをもって、より一層従業員への喚起と、社会への発信を行なうことを期待している。

BANI

Brittle/Anxious/Non-linear/Incomprehensible

2025年 7月 1日
代表取締役社長 森山 正孝

<環境経営方針及び実施体制の見直し>

項目	見直しの有無	評価コメント
環境経営方針	無	現時点での環境経営方針自体の見直しは不要。
実施体制	無	現時点での実施体制の見直しは不要だが、組織変更があった際は、適宜体制や委員の見直しを検討すること。



みつけま☆
ZTC 日本ゼトック

● 本社

〒163-0512 東京都新宿区西新宿1丁目26番2号 新宿野村ビル12F
TEL : 03-5323-2020 (代表) FAX : 03-5323-3010 (代表)

● 相模原事業所

〒252-0146 神奈川県相模原市緑区大山町1番5号
TEL : 042-775-8700 (代表) FAX : 042-775-7012 (代表)

● 新生富山事業所

〒930-0325 富山県中新川郡上市町三日市22番地
TEL : 076-472-0380 (代表) FAX : 076-472-0339 (代表)

● 大阪営業所

〒541-0052 大阪府大阪市中央区安土町三丁目2番4号JUST本町ビル7F
TEL : 06-6262-6881 FAX : 06-6262-6601

来年も、環境に優しい会社を
目指していきますので、応援よ
ろしくお願いします💕

節電や省資源など、小さなこ
とからコツコツ、この調子で頑
張っていきましょう！

このレポートを読んで、少し
でも環境問題に関心を持って
くれたらうれしいな💕



MASCOT
CHARACTER